

目差せ出荷乳量170%!! TMRセンター設立運営管理の支援

(標津町古多糠地区)

1 課題の背景*****

家族経営で抱えている労働力の負担軽減、牧草収穫作業の効率化などによる自給飼料の品質向上と安定供給を目的として、6農場が組織したTMRセンター「(株)望洋アグリワークス」が令和元年(2019年)10月に稼働した。

TMRセンター移行を円滑に行うために、TMRセンター稼働前から乳牛の飼養管理を中心に改善をする必要があった。また5年後の目標である「出荷乳量 170%」を達成するための運営支援が求められていた。

2 活動の経過*****

表 1 活動経過

具体的推進事項	活動内容	時期	方法	対象
TMR稼働前後の飼養管理改善支援	構成員農場の飼料給与状況などの確認	4~5月	個別	6農場
	構成員農場の搾乳牛および乾乳牛の飼養管理技術の改善	4月~	個別・集団	6農場
	TMRセンター稼働に向けた認識の統一	4月~	個別・集団	6農場
	TMRセンター稼働後の給与メニューの提案	10月~	個別・集団	6農場

(1) 構成員農場の飼料給与状況などの確認

- ・個別巡回を行い、各構成員の搾乳牛および乾乳牛の飼養管理などの確認
- ・つなぎ牛舎で濃厚飼料の分離給与を実施している農場で、飼料の給与体系をTMRに移行することから不安を抱いているため、優良事例視察を行い、不安を取り除いた。

(2) 構成員農場の飼養管理技術の改善

- ・個別巡回を行い、搾乳牛や乾乳牛の飼養管理の見直しが必要な農場に対し、飼養管理改善を提案した(写真1)。

(3) TMRセンター稼働に向けた認識の統一

- ・構成員やTMRセンターの飼料調製担当者、JA担当者、飼料会社職員と情報を共有し、認識の統一を図った(写真2)。

(4) TMRセンター稼働後の給与メニューの提案

- ・TMRセンターが稼働後、個別巡回による乳牛の状態や生産性、生産者の評価を基に適時混合割合を変えて、栄養摂取量を高めた(写真1、3)。



写真1 個別巡回の様子



写真2 関係者との情報共有の様子

3 活動の成果*****

TMRセンター稼働前から生乳生産を伸ばしていたものの本活動を行うことで、乾乳牛管理や飼料給与を見直すとともに、基礎飼料の調達先をTMRセンターに移行させたことで出荷量は前年比13%増となった(表1)。また、周産期疾病が減り、効率的な生乳生産も可能となった。この取組を地域の講習会で事例紹介し、技術の啓発を図った(写真4)。

表2 具体的推進事項の目標事項と達成度

具体的推進事項	目標事項	目標	実績	到達度
TMRセンター稼働前後の飼養管理改善支援	出荷乳量の向上	構成員出荷乳量 2018年対比105%	2018年対比 113%	107%



写真3 構成員会議の様子

搾乳牛

乾乳牛

A農場ではつなぎ牛舎で搾乳牛と乾乳牛を分けて管理し、適正なTMRを給与することで分娩後のBHBが低下し、周産期疾病による廃用牛頭数が激減した。1頭あたり乳量は改善前21.6kgから改善後は29.2kgに向上!!(表3)

表3 改善前と改善後の変化

	改善前	改善後
分娩後60日以内の搾乳牛BHB値0.13以上の割合	60.30%	0.03%
1頭当乳量(kg/日)	21.6kg	29.2kg

B農場では、乾乳牛舎の設置や搾乳牛へのカルシウムの充足を高めたことで、周産期疾病が低減し、出荷乳量は2018年対比で116%に向上



C農場では、視察をきっかけに飼養管理を見直し、出荷乳量乳量2018年対比で110%UP!!

「分娩後の事故が減り、生まれてきた子牛も元気で発育も良くなった」という声も

※BHB (βヒドロキシ酪酸) : 乳中ケトン体の指標

4 今後の活動*****

さらなる構成員農場の飼養管理の改善や増頭計画の提案、TMRセンターの給与メニューの見直しを行い、費用対効果を考慮したより効率的な生乳生産を行うための支援を行う必要がある。

